家畜衛生情報

飛騨家畜保健衛生所
令和６年１２月１３日

ランピースキン病 国内状況 第3報

福岡県、熊本県における本病の発生について、現在の状況をお知らせします。

最新情報

・発生状況：20事例（福岡県：18事例、熊本県：2事例）
・ワクチン接種状況：福岡県で11月21日から発生農場周辺20㎞範囲で開始
（現時点では熊本県で接種はしない方針）

症状

写真引用：福岡県HP

↓ 農水省HP

↓ 福岡県HP

皮膚の結節、発熱、泌乳量の低下 など

上記のような症状が見られたら

① 症状のある牛を隔離
② 同居牛を含めた牛、資材等の移動の自粛
③ すぐに診療獣医師または家畜保健衛生所へ連絡

ワクチン接種開始に伴う対応

令和6年12月10日付け
農林水産省消費・安全局動物衛生課長及び畜産局食肉鶏卵課長

アメリカ合衆国との協議を踏まえ、現時点で以下が求められています。

・ワクチン接種県（現時点：福岡県のみ）に由来する牛は、令和6年12月12日以降米国向け輸出牛肉取扱施設に出荷・搬入しない
・ワクチン非接種県にある施設のみ輸出可能
・輸送時にワクチン接種牛と非接種牛を同乗させない

※ 米国向け輸出牛肉取扱施設：全国16施設
（岐阜県内では飛騨食肉センター〈飛騨ミート農業協同組合連合会〉が該当）

家畜衛生情報

対策

(1)吸血昆虫対策

発生農場では、サシバエが多いほど発症頭数が多い傾向にあるようです。

〈成虫対策〉

・**薬剤散布**：**ピレスロイド系薬剤**を、ハエの休息場所となる壁や柱等に定期的に散布

・**牛舎周辺の草刈り・清掃**：休息場所を減らす

・**防虫ネット**：目が2㎜以下

サシバエ（成虫）

〈卵～幼虫対策〉

・産卵場所の**糞尿や飼料残渣の清掃と堆肥化**：
堆肥の発酵熱(50℃以上)により幼虫の致死率上昇

・**IGR製剤（脱皮抑制剤）**等を定期的に散布：
幼虫の発生しやすい畜舎の壁際など牛に踏まれない・湿度の高い場所への散布

堆肥の中の蛹

引用：https://www.chikusan-club21.jp

(2)消毒

ランピースキン病のウイルスは、以下の特徴があります。

・環境中においても長期間生存する可能性

・乾燥した痂皮で35日間、日光が当たらない環境中で数か月間生存する報告例あり

・畜産現場で用いられる一般的な多くの消毒剤に感受性あり

➡ 有効な消毒薬の種類：逆性せっけん、塩素系、ヨード系、アルコール、消石灰等

消毒薬を効果的に使用し、農場内へのウイルスの持ち込みを防ぎましょう

【消毒薬効果の影響要因】

① **温度**：一般的に低温下で効果減弱↓

② **濃度**：濃度に比例して殺菌力増強↑

③ **有機物質**：糞尿等の有機物存在下において効果減弱↓

④ **pH**：逆性せっけんはアルカリ性で、塩素系やヨウ素系などは酸性下で効果が高くなる↑

飛騨家畜保健衛生所(飛騨総合庁舎内)
〒506-8688 高山市上岡本町7－468
TEL:0577-33-1111(内線403) FAX:0577-32-9019
E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp
※閉庁時には案内メッセージに従って対応をお願いします。

飛騨家畜保健衛生所
家畜衛生情報は
こちら⇒